

令和元年度 第1回

甲州市総合教育会議議事録

令和2年3月10日 開会

令和2年3月10日 閉会

甲州市政策秘書課

- 1 日 時 令和2年3月10日(火)
午前10時00分開会
午前10時55分閉会
- 2 場 所 甲州市役所 本庁2階 第一会議室
- 3 出席者 甲州市長 鈴木 幹夫
甲州市教育委員会
教育長 保坂 一仁
教育長職務代理者 荻原 浩洋
教育委員 矢崎 秀明、石川 順子、永田 清一
事務局職員
政策秘書課
課長(事務局長)、政策調整担当リーダー、政策調整担当
教育総務課
課長 教育総務担当リーダー
学校教育担当リーダー、学校教育指導主事
- 4 欠席委員 なし
- 5 協議事項等
(1) 学校再編審議会の報告について
(2) その他
- 6 議事経過 以下のとおり

(午前10時00分開会)

○町田事務局長

それでは、定刻になりましたので、ただ今から令和元年度第1回甲州市総合教育会議を開催します。

会議に先立ちまして、挨拶を交わしたいと存じます。ご起立ください。相互に礼。ご着席ください。

私、総合教育会議の事務局長を努め、会議の進行をします、政策秘書課長の町田と申します。よろしくお願ひします。

それでは、お手元の次第により、会議を進めます。

はじめに、鈴木市長からご挨拶を申し上げます。

○鈴木市長

本日は、総合教育会議の開催にあたり、ご多忙の中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。また、日頃より本市の教育行政につきまして、格別なご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、教育委員会におかれましては、教育のさらなる振興を図るため、「第2次教育振興基本計画」が策定されており、各種施策の実現に向けては、教育委員会との連携・協力が大変重要だと考えています。

また今回は、学校再編審議会の報告を聞くなかで、教育行政がより良いものとなるよう教育委員の皆様と活発な意見を交わし、今後の対応を行っていきたいと考えています。

私は、市長選のときに学校再編の問題については、慎重に進めていくということをお話ししました。しかし、子どもの教育については、より良い方向に行くように市全体を考慮して総合的に判断するなかで、9月か12月の市議会に報告したいと考えています。

本日は、大変重要な会議ですので、教育委員の皆様それぞれの考えを聞き、教育長から教育委員会としての方向性を聞きたいと思っています。

よろしく申し上げます。

○町田事務局長

ありがとうございました。続きまして、次第の3、議事に入ります。

まず、議事(1)「学校再編審議会の報告について」となります。こちらは、過去に開催した総合教育会議において議題となった「学校統廃合について」と関連しますので、簡単に経緯を説明します。

市では平成29年度と30年度の総合教育会議において、学校の適正規模や統廃合についての意見を交わし、「学校関係者や保護者、地域の皆様の意見を聞きながら、中学校再編の検討を進めていく」とのことが確認されています。また、前回の会議において、前市長から「中学校だけでなく全ての小学校のPTA・保護者から意見を聞く場が必要」との発言がありました。

それを踏まえ、教育総務課では、学校再編審議会を立ち上げるなど、本市の小中学校の在り方の検討を行ってきました。

そのことについて、今年度の学校統廃合に向けた取り組み状況や審議会での審議内容など、教育総務課より報告をお願いします。

○村松教育総務課長

※小中学校の適正規模、適正配置を維持するための学校再編に関する答申書を説明

1. 学校再編に関する審議会の中で
2. 学校再編の考え方について
3. 学校再編の基本方針について

学校再編については、小中学校を分けて考えることとします。

(1) 小学校について

市内 13 小学校において、その多くが単学級であり、その内 5 校には複式学級があります。複式かつ少人数での学習では、「多様な考え方に触れる機会が少ない」、「切磋琢磨する機会が少ない」、「友人関係が固定しがちである」などの課題もあります。そこで本市では、ICT やテレビ会議システムを活用した授業や共通する行事の合同実施、地域との連携行事などを実施し、こうした課題克服に努めています。

本市の小学校においては、以前から地域との関りが非常に強く、学校教育への協力支援も大きいものがあります。また、災害発生時には避難所としての機能も有するため、地域になくってはならない公共施設の一面を担っています。小学校は、単に教育施設という位置づけだけではなく、地域に必要とされる施設であり、学校がなくなってしまうと、その地域が衰退してしまう恐れがあることなどに鑑み、現状のまま存続することが適当であると考えます。

(2) 中学校について

審議会としては、下記のように現行維持の考えと、統合再編の考えのいずれにも一長一短があり、短い審議期間では、結論を得るには至りませんでした。今後さらに議論を進めていただきたいと考えます。

- ① 市内中学校においては、前述の文部科学省の研究委託事業を受託し、生徒一人ひとりに確かな学力を身に着けさせる環境を作ること、学年を超えて全校で取り組む活動を取り入れるなど、小規模校の良さを最大限に発揮する環境を整えることに努めています。また他校との合同行事や部活での合同チームでの大会出場など創意工夫した教育活動を展開しています。さらには、地域独自の歴史的文化的活動や産業学習などの取り組みをさらに発展させることを期待して、現状のまま中学校 5 校体制とするすることがよいとの考えもあります。
- ② 現在の中学校 5 校においては、その多くが単学級であり、クラス替えができず生徒の人間関係も固定しがちな状況も見られること、授業での学習の更なる深化・拡充にも課題があること、教職員の定数が少なく授業のみに対応する時間講師などの配置により学年や学級の経営に十分に取組めないこと、校内での芸術文化体育活動の分野でも支障をきたしていること、加えて、部活動では希望する部を設置できないことが多いことなど、課題もあり再編やむなしの考えもあります。

いずれにしても、社会性や人間性を育む思春期前期に当たる中学校生活、より充実したものとなるとともに、安心して学校生活を送れるよう、中学校の再編の有無にかかわらず、学校・保護者・地域・行政が連携し合い、中学校を支えていくことが重要であると考えます。

4. その他配慮事項

○町田事務局長

ありがとうございました。

教育総務課長から答申の内容について説明がありましたので、教育委員の皆様から発言をお願いします。

○石川委員

答申書は、この前の教育委員会のおきに見ましたが、やはり書かれているように一長一短があると思います。学校側と生徒側、先生側の色々な意見があると短期間ではまとまらなかったのではないかと思います。

私が1つ気になるのは、市の財政です。多くの学校があることによって、費用が掛かっていることも考えていかなければならないと思います。多くの学校があり、生徒が少なくなるなかで、学校経営が出来るのかという課題もあると思います。

大変難しい問題ですので慎重に時間を掛けて進める問題だと思います。

○荻原教育長職務代理者

この学校再編について、市長が県議会議員のときに「教育の充実は未来の山梨を占う最大の指針である」という言葉を残しています。教育を本当に大事に思っていることが感じられて嬉しく思っています。

また、市長の就任当初に、「学校再編については、慎重に取り組みたい」という話がありました。それまでは少し先走っていると感じていましたが、その市長の言葉でやや落ち着いた感じがしています。しかし、市長から9月か10月を目途にある程度の結論を出さなければいけないとの話がありましたので、色々と詰めていかなければならないと感じています。

私は、出来るだけこの形を残して行ってほしいと思っている1人です。小学校は、答申にもありますが、勉強の場というばかりではなく、地域の核となる施設と言えます。地域が小学校を中心に回っている面もありますので、小学校は人数が少なくなり複式学級が増えてきますが、是非残してほしいと思っています。

中学校についても、私の考えでは残してほしいと思っています。しかし、先ほど石川委員さんが述べたように、それは財政的な面も非常に大きく関わっていくと思いますので、そこは慎重にやっていかなければならないと感じています。ただ、それぞれの中学校でそれぞれの良さが今発揮されているところなので、それを数の論理だけでまとめてしまい、色々なものが消えてしまうのは本当に残念です。特に今年コミュニティスクールにおいて、それぞれの地域と学校の結びつきを更に強化しています。もともと甲州市は地域と学校の結びつきが非常に強いところなので、改めてコミュニティスクールというまでもなく地域に根差した学校であると思います。そこは活かしていきたいと思っています。

国の新学習指導要領のなかに「生きる力」があり、今度は人間力を養うということを大きく謳っています。知識や技能の習得、それから思考力、判断力、表現力、学びに向かう力、人間性をどう高めていくのか、それは自分の居場所がしっかりす

ることでそういう力が発揮できると思います。そして、小さい頃の記憶は非常に大きなものがありますので、小さい頃にそのような環境で勉強したことが自分のためになったという強い思いがあるとすれば、大人になっても地域のために力を尽したいと考える子どもが出てくるのではないかと思います。地域・郷土を愛する心を育むためにも、是非、地域に学校があってほしいと思います。

○矢崎委員

この場を設けて我々教育委員の意見を聞いていただき、ありがとうございます。

この問題については、前市長からも再三に渡って検討するようと言われてきました。しかし、学校再編については一長一短があり、直ぐに結論が出ないため、審議会においても検討していただきました。しかし、それでもやはり審議会としても「小学校については是非残したい。中学校については何とかしなければならない気持ちであるがなかなか結論はでない」との回答でした。

市長が言われたように、この問題については慎重に対処していかなければならないと思っています。子どもと地域と学校は密接に繋がっています。しかし、一方、甲州市だけでなく山梨県全体をみても、財政あつての教育ですので、前市長には教育関係予算については、「確かな学力」を中心として予算を配分していただき感謝をしています。

今後、財政が厳しくなっていくと 13 校の建物を維持していくことも大変になると思います。しかし、子どもに豊かな教育環境を与えていかなければなりません。そのことで、市長としても非常に頭が痛い問題で、悩むことになると思いますので、市長が「急ぐことはないが、今年中には自分の意思を発表したい」と話したことはよく理解できます。

小学校については、時期尚早で地域住民の意見を良く聞き、中学校については、何とか目途を付けていつまでに何をやるかを決めていかなければならないと思います。市を預かっている市長が市全体を考え取り組んでいることを、地域住民に理解してもらえるのではないかと思います。この問題については、地域住民、子ども、保護者、一般の方に理解され、やらなければならない時期を図ってやっていく必要があると思います。保護者アンケートの結果も出ていますので、その辺も考慮して無理なくタイミングよくやっていかなければならないと思います。教育委員としても、学校の先生や保護者の意見を聞き、情報共有をしながら進めていくことが必要であると思います。

個人的には、全 13 校を残していくことが一番良いと思っています。しかし、近隣の市町村を見ると、山梨市は、旧山梨市のとくに思い切って中学校を 2 校にし、牧丘・三富地域でも 2016 年に大きな学校再編をしています。それもどうかと思いますが、やってみればどうということはないのかもしれませんが、何れにしても私たちの意見は、甲州市は子供を中心に考え、最終的に子どもが成長した時に市の教育を受けて良かったので戻りたいと思うような教育をしていきたいと思っています。

○永田委員

学校再編の基本方針について、答申もありました。私は、最近委員になったのですが、それ以前から小学校・中学校の学校形態も含めて興味関心がありました。

私はこの問題を考えるときに、初等教育6ヶ年と中等教育の前期・後期において、通常の人々が成長するプロセスと教育がどのように結びつくかを考えることが子どもを中心とした考えになるのではないかと考えています。

初等教育6年間の教育がどうあるべきか考えていましたが、私が教育委員になって驚いたことがありました。ここに甲州市の教育の資料がありますが、物の見事に初等教育6ヶ年の骨組みがしっかりしていて、「学級づくり・集団づくり部会」、「授業づくり・授業改善部会」、「保護者や地域住民との連携」の3つが確たるスキームとしてできているので、ここに生まれ育った子ども達にとればこれほど良い環境はないと思っています。

南小を含めて数校はそれなりの数を有した小学校ですが、他はだいたい少人数学級や複式学級であることは事実です。答申書に「多様な考え方に触れる機会が少ない」、「切磋琢磨する機会が少ない」、「友人関係が固定しがちである」とあります。これら言葉は一体何を指すのかということです。「多様な考え方に触れる機会が少ない」については、それでは人数が多くなればそれが解消されるのか。「切磋琢磨する機会が少ない」については、これについても人数が多くなれば切磋琢磨する機会が多くなるのか。「友人が固定しがちである」については、友人が固定してはいけないのか。ということが、一方で子ども達の世界にはあります。そう考えると、多様な考え方に触れる機会が少ないのであれば、多様な考えを持つ小学生を育成すべきであり、切磋琢磨してチャレンジする強い意志を持つ小学生をつくることが使命であり、友人が固定するのは、自分が本当に信頼のおける友達ができるということであり、もっと言えば、人間関係の自分の物差しが持てるということです。そう考えると、単に形態的なもので一緒にしていくという論理は成り立ちません。

確かに設置者として、市の財政的な問題があると思いますが、その部分も当然大事ですが、先ほど私が話したように、その時代に合った教育が十分に与えられ、「人・自然・ふるさと」の感情が醸成された子どもが、将来甲州市に恩返しをしてくれると確信をしています。そのような思いがあり、小学校については極めて慎重に進めてもらいたいと思います。

私は神金に住んでいます。神金小学校は小さな学校ですが、会報誌を発行しています。その保護者の中に、「神金小学校初の複式学級としてスタートした4年生、どんな感じになるのか親として不安でしたが、子どもは自然に溶け込み、その柔軟性に驚きました。子ども達からは、新しく始まる委員会活動やクラブ活動への期待とやる気が感じられました。運動会やふるさと学習会、持久走大会など大きな行事に参加することで、頑張ってやり遂げた達成感が子ども達への自信に繋がったと思います。これからも仲良く楽しい学校生活が過ごせると思います。」との意見がありました。これは1人だけが言っているのではなく、多くの方が述べている事実をみると、私が冒頭で話したことも話題の1つ柱になるのではないかと思います。

中等教育前期の時代を考えると、私を含めここに居る方もそうだと思いますが、12～15歳は多感な時代です。どんどん外側に興味が湧き、色々なことにも挑戦したい。その挑戦は小学校レベルとは違い、もっと色々な人を知りたいという多感な時代です。多感な時代に必要なものは、数多くの人々です。大人を含め生徒も多ければ色々な人がいるので効果があります。色々な人の良さを自分なりに考え、親友を作っていく時代にもなります。そのようなことを考えると、中等教育前期の3年間を義務教育の仕上げとして、どのように位置付けるのか、それを適正規模という言い方で処理するのか、子どもに多感な生活や興味関心をもっと助長してあげる環境を作るのか、といった方法も考えられると思います。

私も塩山北中学校の出身ですが、今は生徒もだいぶ減りましたので、もう少し友達が欲しい、あるいは色々なことに挑戦したい、また部活動や地域活動のこともありますので、それらを考えるとあまり延ばすことではなく、どこかで結論をつけて統合ということは考えられると思います。

○保坂教育長

学校再編の問題ですが、平成29年度、30年度に総合教育会議において前市長から検討してほしいと指示を受け、これまでにアンケートの実施や今回の答申を受けた学校再編審議会を立ち上げるなどして検討してきました。また、教育委員会として、現状の子ども達の教育環境を最高のものにするように邁進してきました。

その中で、先ほど話題になった第2次教育振興計画に学校の適正化の記述もあります。私も教育行政を預かる者として、市の財政状況を理解し、公共施設の在り方についての会議にも出席していますので、財政的な厳しさ、公共施設の状況を把握しています。公共施設を適正にするため、学校施設の減築や、複合化といった学校内に公民館の設置や学校の放課後を利用した児童クラブなどを取り入れることも考えられます。

また、小中一貫教育、中高一貫教育などを検討しましたが、甲州市としては、全ての地域住民の力を借りて教育を支えていくためのコミュニティスクールを立ち上げ、先生の方だけではなく地域の力、保護者の力を借りてワンチームで学校教育をしっかりとやっていきたいと思っています。これは、先ほどから話にあるように学校の位置付けは、地域の核であり、日本の文化の中で大切な施設であるので、現状の教育施設を残したい思いで進めてきました。

そのようなことから、小・中・高の棲み分けをしっかりとした上で、令和3年度に中学校の統廃合を進めていくため、昨年が一番小規模である大和中学校の統廃合について意見を聞くために大和地域の保護者会に出席しました。先ほども話が出ましたが、市全体では統合について60～70%が止む無しのデータが出ていますが、実際に話を聞くと、「何故大和地域だけ対象になるのか」、「もっと財政的に削減すべきものがあるのではないか」などのかなり厳しい意見がありました。その中で、甲州市は、中学校全体の再編を考えているので大和地域だけの問題ではないという話もしました。

このようなことから、教育委員会の立場として「小規模校だから不利にならない」、「小規模校だからできる教育内容」を、先ほど話に出たテレビ会議システムの設置、合同修学旅行や合同旅行を計画するなど各種の行事に取り組んでいますので、甲州市の教育環境が劣悪な状況ではありません。ここでしっかり議論し、市長の方向性を確認するなかで、この答申と市長の意向をしっかり踏まえながら学校再編を進めていきたいと思いをします。

○鈴木市長

先ほど話しましたが、市全体を考えるなかで、今後どのように子ども達の教育を考えていくかが基本であると思っています。

現時点では、小学校の再編は考えてはいません。基本的には、市内中学校の全体を見て、地域の大人よりも子ども達にとっての教育がこのままで良いのかどうかを考える上で、良い面と悪い面をはっきり出してもらいたいと思いをします。

私自身、秋田などに行って勉強してきた上での私個人な考えですが、市の教育の位置付けとして、財政面のこともあるが小学校と中学校は別に考えていきたいと考えています。まずは中学校をどのように考えるかだと思います。先ほど、勝沼中と大和中の話がありましたが、大和地域の中学生を持つ保護者の意見として、小学校とはまた別だと思いののですが、「中学校を卒業して外の社会に出ていくことを考えるとすれば、小規模校は一定規模の学校と比較してデメリットが大きい。少人数学級のままであれば、電車などに乗って他の中学校へ行けるので、甲州市の教育に拘る必要がない。」と聞いたこともあります。

一方、財政面の話をすると、甲州市は全国的と比較して人口減少が進行しているので、人口減少対策は待ったなしの状況です。様々な施策を行うことで人口減少を緩やかにすることは可能ですが、完全に歯止めをかけるのは困難な状況です。そのようなことを考慮し 10 年後 20 年後の教育を考えると、教育予算の維持も難しいと思いをします。

最適な公共施設の配置を実現するための公共施設等の基本を示した「公共施設等総合管理計画」では、今後の財政状況や人口の推移を見込み公共施設の更新に要する費用推測すると、計画期間の 30 年間に総額 223 億円、年平均 7.4 億円の財源不足が見込まれているので、庁内プロジェクトチームが市内全て施設を対象に統廃合を検討し、教育施設の統廃合についても検討しています。庁内プロジェクトチームは、そのようにしていかなければ、甲州市として子ども達に良い教育を提供する財源の確保もできなくなるので、学校再編も考えていく必要があるではないかという考え方でした。

私は、地域住民の声や財政面などを理解するなかで、勝沼中と大和中の統合について考えていかなければならないと思っています。私も慎重にやっていきたいとは言っていますが、どこかで結論を出さなければずっと結論が出ないままです。学校再編は、勝沼中と大和中だけの問題ではなく、相対的にみて、市内全ての中学校の在り方を段階的にでも考えていかなければなりません。

この答申は、両論併記となっています。これは、審議会で決めることが出来なかったということなので、答申を踏まえて、上にいる教育委員会が指針を出す必要があります。私の一存ではなく、まずは教育委員会のはっきりした方針を早めに欲しいと思います。教育委員会5名の意見は私の意見でもあると思っています。私が責任を取りますので、然るべき時に方針を決定してもらいたいことを教育長はご理解願います。慎重に進めると言ったまま2年も3年も放置するわけにはいきません。ずっと結論が出ない可能性があります。教育委員会が今やるべきことを出していくことが必要です。

学校を再編するコンセプトは作らなければなりません。確かに保護者からの意見はとても大切ですが、私はそれだけを聞いて判断するのは良くないと思います。だから、私は市民に再編の必要性の説明を行い、また市の置かれている状況を周知していくことも必要だと思っています。

私としては、学校再編について12月議会に方向性を示したいと思っています。統合する場合は時間がかかります。再び、学校再編審議会に諮問しても結論を出すことは難しいと思いますので、10月中に教育委員会として方針を決めて欲しいです。最終的には、市長が決めることかもしれませんが、市と教育委員会が力を合わせてやっていきたいと思っています。よろしくお願いします。

○保坂教育長

先ほど、市長から12月議会に方向性を示せるようにと指示をいただきましたので、教育委員会としては、毎月開催している教育委員会の中で議題にあげ、10月中には結論を出したいと思っています。

○鈴木市長

よろしくお願いします。

○町田事務局長

それぞれ発言されましたが、意見等がありますか。

無いようですので、それでは本日の協議内容を踏まえまして、教育委員会の中で検討していただきたいと思っています。

次の議事に移ります。議事(2)「その他」について、皆様から発言があればお願いします。

○保坂教育長

鈴木市長と教育委員会の初めての場ですので、今までの甲州市の教育の取り組みについて少し話したいと思っています。

甲州市総合計画を土台とし、第2次甲州市教育振興計画を策定しました。その中で、学校教育、文化財、生涯学習がワンチームで取り組んでいます。今回は、学校

教育を中心に話をします。先ほど永田委員が話した、社会に生き抜く力の育成するための授業を教員にしっかりやってほしい願いと、仲間と一緒に生活する集団作りを教育の土台として行うため、保護者と地域住民の力を借りるということが甲州教育のコンセプトです。甲州市は「人・自然・ふるさとを愛する甲州教育」を行っており、子どもと親への願いとして「子ども 十の誓い」、「親のあり方 十か条」を制定し、脈々と流れていますので、これを土台に進めています。

学力の点数の面では、素晴らしい成績をあげています。先生向けには、甲州市の方向性を示したティーチャーズノートという冊子を作り、家庭向けには、子どもの教育に悩んだ時に使ってもらうため全ての家庭に子育て Q&A を配布しています。また、先生が食育を行うためのバイブルを全国に先駆けて作りました。そして、子ども達には、食育ノートを作ることで食に関することに関心をもち、力を入れています。

また、コミュニティスクールを全ての小中学校で4月から実施します。その研究校として勝沼・大和地域で実施した研究と、小規模校かつ小人数である大藤小・神金小・玉宮小の6年生がテレビ会議システムを利用し、同じテーブルで交流できるような授業をしています。現在は、勝沼中と大和中もそのような授業を行い、新潟県とも交流しています。その取り組みによって予算は掛かりますが、とても充実した甲州教育を行っています。引き続き、よろしくお願いいたします。

また、複式学級解消のための支援員の派遣や様々な甲州市の特徴ある事業の展開と、ふるさと甲州の文化財や地域の人を大事にした教育を進めていきます。

○鈴木市長

私の公約であり議会でも発言した義務教育の給食費の無償化の件について、教育長とは話をしていますが、基本的には教育委員会で話を進めてもらいたいと思っています。

私の考えとしては、全てを無償化にすることは考えていません。他の市町村では一部を無償化しているところもあるので、甲州市なりの無償化を考えていきたいと思えます。例えば、主食である米やパン、牛乳これらを対象にする方法などがありますが、市の財政負担もありますので、先ずはいくつかのシミュレーションをして欲しいと思います。当然、全て無償に出来る方が良いのですが、甲州市は財政が豊かではないので、出来る範囲で実施していきたいと思っています。

教育予算の一部となるので、給食費無償化より他のことをした方が良いという方もいますが、これは無償化に限った話ですので、よろしくお願いいたします。

また、現在、給食費が無償となっている子どもはいますか。

○保坂教育長

生活保護の家庭などは無償になっています。

○鈴木市長

給食費を無償としている家庭は別に考えて、米と何かを無償化すればどの程度の

予算が必要なのか試算した上で、可能なら令和3年4月からスタートしていきたいと思っています。ご検討よろしく申し上げます。

○町田事務局長

それでは、教育委員会において給食費無償化に向けての試算をお願いします。
他に発言はありますか。

○永田委員

先ほど話をしましたが、中学校の年頃はどのようなことを考えているかということ、自分の中学生時と現代では時代が変化していますが、成長プロセスはそれほど変わらないので、その頃はどのように考えていたかをよく思い出しながら提案できればと常々思っています。

中学生になるとその先の進路を考えることになりますが、進路には色々な選択肢があります。市長の話聞き、甲州市の教育である「生きる力を身に付ける」ということを基盤に置だけでなく、それ以上にすべきことがあるのではないかとということも保護者も含めて、教育環境の重要性を説いていくことが必要であるのではないかと感じました。

○保坂教育長

昨年、庁舎の隣にある建物の中にある中村克郎氏から寄贈された資料である「わだつみ平和文庫」を文化財にしました。市内全ての中学校がこの資料を活用していき、非常に良い資料となっています。また、今年度には、筑波大学の学生が卒業論文に活用してくれました。教育委員会として、甲州市には古い文化財が多くありますが、この資料は近代として非常に大切な資料であると認識しています。

市長には、今後この大切な資料を市民全体で守っていくようにしてもらいたいと思います。

○鈴木市長

これは本当に素晴らしい資料です。子ども達にとって非常に良い資料なので、市民が利用しやすい場所へ移設したほうが良いと思います。早急に場所選定をお願いします。

○町田事務局長

他に意見が無いようですので、議事を終了したいと思います。貴重な意見、慎重な協議ありがとうございました。

それでは挨拶を交わし、令和元年度第1回甲州市総合教育会議を閉じます。ご起立ください。相互に礼。ありがとうございました。

(午前10時55分閉会)